

OAセンターの職場改善で 2名の視覚障害者の自立を支援

最優秀賞

専門知識を活かして パソコンを扱う業務に専念

化成フロンティアサービスに最初に重度（障害1級）の視覚障害者が雇用されたのは平成11年4月のことである。筑波技術短期大学の情報処理学科を卒業した中村忠能さん（障害1級）が入社し、OAセンターに配属された。その後、14年4月に同じく筑波技術短大情報処理学科卒の中村真規さん（障害1級）が入社、やはりOAセンターに配属されるが、同社の視覚障害者への本格的な対応は、この11年4月に始まる。

なお、視野狭窄および弱視の障害者（1名）については、書類（図面）保管庫の管理と同データベースのパソコン入力によるメンテナンス業務を別館で

行っているが、作業上の支障がないため、特に対策は取っていない。

現在、中村忠能さん、中村真規さん2人が日常的に行っている業務を整理すると次のようになる。

テーブライター：録音された会議や講演会などの内容を聞き、パソコンでワープロ文書として入力する（テープ起こしをする）。

インターネットホームページの作成：他社からの依頼を受け、ホームページに視覚障害者がアクセスできるように作成・改善する。自社のホームページの作成から着手中。

各種点字資料の作成：点字名刺、点字図書、点字議事録など。

インターネットを検索しての各種情報収集業務。



点字プリンター。点字印字の際、かなり穿孔音がうるさいため、点字プリンターは厳重な防音箱の中に設置され、印刷中も蓋が閉まっている。



点字名刺印刷機で名刺に点字を入れる。



画面読み上げソフトを使ってデータ入力中の中村真規さん（手前）と中村忠能さん（左奥）。

社員への受け入れ教育

本人への教育研修

設備改善

支援機器導入

職域・能力開発

介助者

意欲・意識改善

障害者雇用の推進に尽力

2人がこれらの作業をするに至るまでに、同社では以下のようなきめ細かな対応策を講じている。

事務所の配置・動線、設備機器など 視覚障害者用に職場環境を整える

下の図の「執務室レイアウト」にあるように、2人が日常的に作業するOAセンターの事務所は、入口近くに席を設けるとともに、隣りにチームリーダーを、すぐ後ろの受付の近くに職業コンサルタントを配置している。

また、トイレ、更衣室、手洗い、給茶機（台所の前）、エレベーターなどへの移動がなるべく直線的になるように、他の机の配置や設備の配置を考慮した。通路幅は、前に述べたように車椅子使用者への

配慮からも1.5m幅を確保し、当然のことながら通路上に障害物を置いていない。

設備機器については、まずパソコンの環境を、視覚障害者向けに設定したことが挙げられる。パソコン本体は通常のものを使用しており、特殊ではないが、PCトーカーやXPリーダーなどの画面読み上げソフトを搭載するとともに、高性能ヘッドホンを装備している（導入費用は約15万円）。また、作業のための専用設備として、パソコンから点字印字を行う点字プリンターを設置し、点字名刺作成のために点字名刺印刷機を設置した（導入費用は2つで約100万円）。

その他、行動予定表やトイレ、エレベーター、給茶機、会議室などの要所要所に適宜点字表示を行っている。



行動予定表の点字表示



OAセンターレイアウト



給茶機の
点字表示



エレベーターの点字表示